

＜株式会社エフエム東京 第332回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：平成18年6月6日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）

◇出席委員（6名）

青池 慎一	副委員長	内木 文英	委員
香山 リカ	委員	横森 美奈子	委員
渡辺 貞夫	委員	内館 牧子	委員

◇欠席委員（1名）

子安 美知子 委員長

4. 番組試聴

【番組名】「三ツ矢サイダーショートストーリー キミの笑顔」

【放送日時】 月～金 14：55～15：00

（試聴：5月8日（月）～12日（金）放送分）

【番組概要】 生まれてきたすべての人にとって、もっとも身近な親子の絆。そんな絆の強さ、大切さ、暖かさを伝えるラジオドラマです。

月曜日から金曜日の5話で完結する一週間完結型のストーリーで、毎週、様々なシチュエーションの親子が登場しています。過去には、国生さゆりや藤田朋子など、テレビドラマや舞台で活躍する女優をメインキャストとして起用しています。

＜試聴時間：約15分＞

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

- ほんのぼのとした内容だった。ここで描かれているのは男の人の視点から見た理想の家族像。この家族の姿が最大公約数的な印象を受けたが、家族の形はそれぞれ違うはず。「本当の家族はこうあるべきなのに、うちは違う」と真剣に悩む人たちがいるが、そういう人たちが聴いて、あせったり不安を煽っ

たりしないか、心配になった。そういう価値観を押し付けるものにならないようにしてほしい。

- 話があまりにもうまくできすぎている。実際はそうでは無い場合のことが多かったりするが、お約束通りの展開だった。どういう人が聴いて一番反応するのか、イメージがつかめなかった。また、時代性がよくわからなかった。オーソドックスなシチュエーションだっただけに、親子の関係が多様化している「今」っぽさはあまり感じられなく、かといって、昔はこうでよかったね、というレトロ感がでていいるわけでもなく、聴いていて落ち着かなかった。
- 脚本を書く人が大変だと思う。親子の会話には言葉少なくても通じる会話があると思うが、その空気感をドラマの中で表現できればいいと思った。脚本を書く人に工夫をしてもらい、頑張ってもらいたいと思った。
- いろいろな条件を、短い時間できちっと起承転結をつけてまとめていた。なかなかうまく工夫できていると思った。最後のほうは、ちょっと押し付けがましい気がしたが、まずまずの出来であった。
- 脚本は基本的にディテールにこだわっていて上手だと思った。この脚本の失敗点としては、途中から話がすりかわっているということ。途中まで「早くパスタを作らないと母親が帰ってくる」という緊張感で引っ張っておきながら、後半で倦怠期の夫婦を子どもが救う、という内容になっている。この内容が5話目になってやっと出てくる。これは1話目でふっておくと母親や子どもの生意気さがうまく話の中で生きてくる。構成を工夫すれば良くなると思う。また、ラジオドラマにはモノログが多かったので、そこを逆手にとって、小説で書いてもらって、うまい俳優さんたちに読んでもらうという方法も面白いと思った。各回の始めに要旨を語っているが、あれが本当に必要なのか疑問に思った。この企画自体はうまく活かして欲しいと思った。
- スポンサーとしても育てたい番組だと思う。親子の関係を描いたドラマと例えば「サイダードラマ」という概念を定着させるべく続けて頂きたいと思

た。

- 本日試聴頂いた作品は一部であり、実際には毎週いろいろな親子が登場している。本日頂いた意見を今後の番組作りに活かしていきたい。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「Heart Sharing」

6月25日（日） 6：00～8：25放送

- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き

- ③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内

<http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は9月5日（火）に開催することを決めた。

以 上